今日も今日とて　貪る私

今日という一日を振り返ってみますと、私達は知らず知らずのうちに、さまざまなものを求め、欲しがり、貪っている自分に気づかされます。お金が欲しい、健康でいたい、人から認められたい。自分の思いどおりになってほしい。人よりも幸せでありたい。欲しいものが手に入れば、もっと欲しくなる。人から褒められれば、もっと褒められたくなる。私達の欲望には、中々終わりがありません。

仏教では、私たちを迷わせる煩悩を「三毒の煩悩」と教えます。「貪欲・瞋恚・愚痴」の三つです。貪欲とは、欲しいものをどこまでも求める心。瞋恚とは、自分の思い通りにならないときに起こる怒りや腹立ちの心。愚痴とは、物事の道理が見えず、不平や不満を重ねる心です。この三毒は、決して特別な人だけが持っているものではありません。私達一人ひとりの心の中にあるのです。

親鸞聖人は、私たち人間を「凡夫」と見つめられました。凡夫とは、煩悩に満ちた私達の姿です。「凡夫」というのは、

「無明煩悩われらが身にみちみちて、欲も多く、怒り腹立ちそねみねたむ心多く、臨終の一念に至るまで止まらず消えず絶えず」。

（一念多念文意）

私達は、年齢を重ねれば煩悩が無くなるのでしょうか。仏法を学べば、欲や怒りを完全に無くせるのでしょうか。残念ながら、そうはいきません。頭では分かっていても、腹が立つ。人と比べては羨（うらや）み、思い通りにならなければ不満を抱く。今日も、明日も、私達は煩悩を抱えて生きていきます。まさに「今日も　今日とて　貪る私」です。

しかし、浄土真宗の教えは、そんな私たちに「煩悩を無くしてから救われなさい」とは説きません。煩悩を抱えたままの私、欲に振り回され、怒りや妬みを捨てられない私を、そのまま見捨てず、救おうとはたらいてくださる阿弥陀さまのお慈悲を教えて下さいます。

ここに、私達の努力だけでは決して届かない、阿弥陀さまの大きな願いがあります。

如来の作願をたづぬれば
（阿弥陀仏が願いを起こされたお心を尋ねてみると）
苦悩の有情をすてずして
（苦しみ悩む全てのものを見捨てずして）
回向を首としたまひて
（回向を何よりも第一として）
大悲心をば成就せり
（大いなる慈悲の心を成就された）

〈正像末和讃〉

阿弥陀さまが願いを起こされたのは、煩悩を無くす事の出来る立派な人を救うためではありません。苦しみ、迷い、煩悩から離れる事の出来ない私達を、決して見捨てないためでした。

「今日も今日とて貪る私」。そんな私の姿を知らされるところに、阿弥陀さまの願いが届いている事を聞かせていただく事がお念仏の教えなのです。